４　４年間の目標と主な方策

	視点	４年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、小学部から高等部まで達成感の持てる授業を実践する。	・授業のユニバーサルデザインの視点で「えびなスタンダード」等を活用しそれに基づいて授業づくりと授業改善をする。 ・小中高一貫性、系統性のある教育課程を編成し、教育活動にいかす。
2	（幼児・児童･） 生徒指導・支援	○一人ひとりの教育的ニーズについて、アセスメント等を充実させ、実態把握を行いそれを「個別教育計画」に反映させ、授業を実践する。	・個別の支援計画に基づき、アセスメントと重点課題を重視した「個別教育計画」を作成して活用する。 ・一人ひとりのアセスメントを実施し「個別教育計画」に反映させ、授業を実践する。
3	進路指導・支援	○地域の関係機関との連携を築き、児童・生徒が地域で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開する。	・小学部から高等部における進路学習や校外学習に指導の系統性を持たせる。
4	地域等との協働	○地域の支援教育のランドマークとしての役割を果たしつつ、インクルーシブ教育を推進する。	・中央農業高等学校等近隣の高等学校と連携した交流及び共同学習を実践する。 ・居住地交流や学校間交流等の交流教育を計画的、組織的に行う。 ・センター的機能を通じて、地域の学校等を支援する。
5	学校管理 学校運営	○学校からの「情報発信力」を高める取組を行っていく。 ○不祥事防止については、不祥事ゼロをめざし取組みをすすめる。	・ホームページやまちコミメールを使用し情報発信力を高める。 ・教職員一人ひとりが事故不祥事防止を自らの課題として認識し、学校一丸となって事故不祥事の未然防止に取り組む。　特に、体罰や不適切な指導の防止に向けて教職員の人権感覚を磨き、より専門性を向上させるための研修会等

5	学校管理 学校運営	○安心で安全な教育環境の整備に取り組む。 ○児童・生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	を行う。 ・災害発生時に自らの命を守るための適切な避難行動がとれるよう、PTAや地域と連携した防災訓練、シェイクアウト訓練等を行う。 ・学校閉庁日を５日間設定し、「ノー残業デー」を実施する。 ・会議の精選を行う。